

ヨーネ病清浄化のための 消毒マニュアル

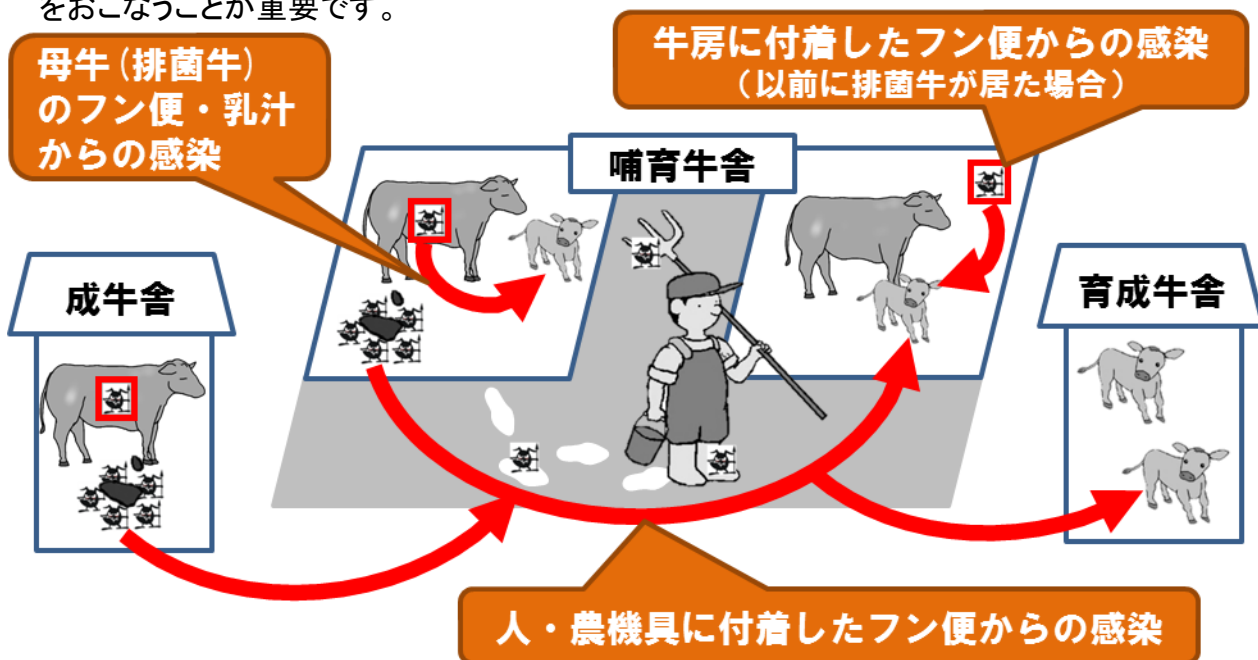
ヨーネ病清浄化のためには検査による患畜の摘発・とう汰も大切ですが、清掃・消毒など衛生管理の徹底による新たな感染の防止も大切です。衛生管理の重要ポイントをまとめましたので、できることから始めてください。

清掃・消毒は継続が第一!!

清掃・消毒は日常的におこなうことが重要です。無理なく実施できるよう、消毒場所の優先順位を決めるなど効率的に実施してください。そのためにはヨーネ菌と、消毒薬の特徴を知ることが必要です。

ヨーネ菌はいつ、どこで牛に感染する？

ヨーネ菌が腸内で増殖し、糞便中に排菌するまでには長期間かかります。つまり、ヨーネ菌は主に成牛が排菌していると考えられます。一方、最も感染しやすいのは6カ月齢くらいまでの子牛ですので、哺育・育成牛の口に成牛のフン便が入らないように清掃・消毒をおこなうことが重要です。



つまり清掃・消毒の最重要ポイントは・・・

- ① 哺育牛舎(特に分娩房)の消毒!!
- ② 哺育牛舎(特に分娩房)、育成牛舎への持込み防止!!

哺育牛舎を中心に、飼槽・水槽、床・通路、長靴等の消毒をおこないましょう

日常の消毒 重要ポイント

● 飼槽・水槽の消毒 ～ヨーネ菌は口から入るので、飼槽・水槽は重要ポイントです～

消毒頻度 毎日

推奨薬剤 塩素剤(クレンテなど)

利点 : 多くの病原体に強い消毒効果がある

欠点 : 金属やゴムに腐食性がある

必要量 1m²あたり 150mL

- 方法**
- (1) 洗浄剤(バイオソルブなど)を散布する
 - (2) 一定時間放置して汚れを浮かせてから水洗いする
(例:バイオソルブなら 30分～1時間放置)
 - (3) 消毒薬を散布する(乾燥させてからの散布が望ましい)
 - (4) 消毒薬は 10分以上作用させてから洗い流す



汚れた水は
病気の感染源

● 床・通路の消毒 ～床は壁の10倍の病原体が潜んでいます～

消毒頻度 牛房の床・パドック : 除フン時・牛の入替時

通路 : 1週間に1回

推奨薬剤 消石灰

利点 : 水洗いなしでも、他の消毒薬と比べて効果がある

欠点 : 人・牛に付着すると炎症を起こすことがある

必要量 1m²あたり 500g

- 方法**
- (1) フン尿や敷き料などを取り除く
 - (2) 床が乾いている場合はしめる程度に水を散布する※
 - (3) 消石灰を散布し、ほうき等を使って均一にする
 - (4) 皮膚に炎症を起こすことがあるので敷料を多めに入れる

※ 消石灰は水と混ぜることで効果を発揮します



● 長靴の消毒 ～自分が感染源にならないよう気をつけましょう～

消毒頻度 毎日

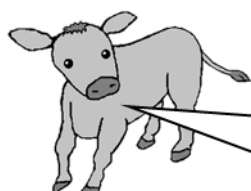
推奨薬剤 塩素剤

必要量 長靴が浸かる程度(参考:右写真)

- 方法**
- (1) 一日の作業が終わったら洗浄して汚れを落とす
 - (2) バケツなどに消毒薬を入れ、長靴を一晩付け置く
 - (3) 翌朝、消毒薬を洗い流してから使用する

※ 子牛に関わる作業機具も同様に洗浄・消毒してください

※ 可能であれば長靴、作業機具は牛舎ごとに専用のものを使用してください



親子分離ができない場合、排菌親牛の子牛が感染してしまうのは仕方がない部分もあると思います。ですが、健康親牛の子牛がもらい事故で感染するようなことは絶対に防ぐようにしてください。

石灰乳塗布による畜舎消毒 ～最強の消毒法です～

石灰はアルカリ成分による殺菌作用を持っており、さらに石灰乳として塗布することで病原体を封じ込めることができます。塗布・乾燥後、石灰が長い期間付着し、効果が持続することも特徴です。

● 資 材

・石灰乳塗布機

(塗布機本体、石灰乳コンテナ、ペール缶、攪拌機、こし網)

貸し出し、問い合わせは関係機関へ

・リシガンとコンプレッサー

・燃料

・石灰(生・消石灰、ドロマイト石灰、ゼオライトなど)

生石灰なら 20kg で 40m² 程度に塗布可能

・マスク、ゴーグル、合羽など (石灰の吸い込み、付着を防ぐ)



①



②



③



④



⑤

● 手 順

1. 準備

- ・資材の確保
- ・牛を移動させ、畜舎の清掃をする
- ・コンセント、水槽などの保護 ②

2. 石灰乳の作成

石灰と水をペール缶に入れて攪拌機で混ぜ合わせる ③

3. 石灰乳の塗布

石灰乳塗布機スタート (説明書をよくお読みください)

石灰乳をこし網でこして塗布機の石灰乳コンテナに投入 ④

塗布面に対して約 1m の距離から石灰乳を吹き付ける ⑤

塗布する場所: 床、壁 (床から高さ 2m 程度; 牛の口が届くところ)

4. 使用機具の整備・洗浄

石灰乳が固まって機具が壊れないように注意

石灰乳コンテナに水を投入し、塗布機内部を洗浄する

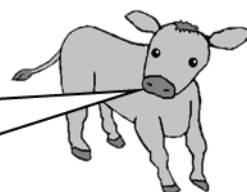
5. 乾燥

天気によるが、1～2 日で乾燥する

● 石灰乳塗布の頻度

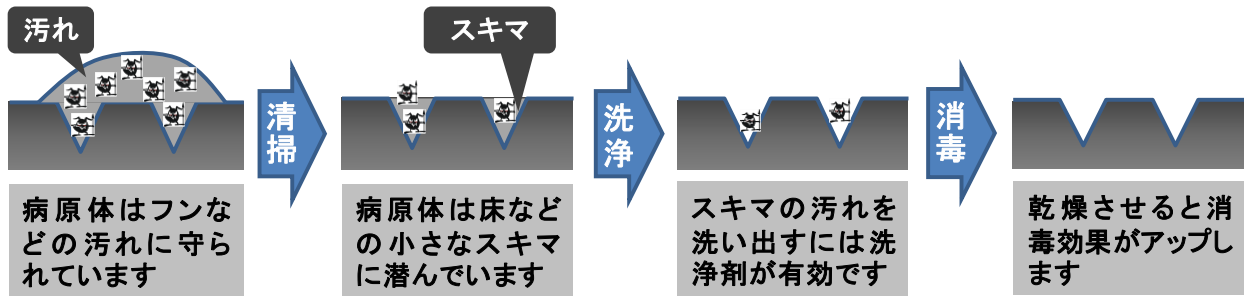
半年～1 年に 1 回程度実施する

農場にコンプレッサーがある場合は、リシガンなど吹付ガンを装着することによって石灰乳塗布機にすることができます。



消毒効果に影響を与える要因

- (1)濃度・量 : 消毒薬の説明書をよく読んで、適正な濃度・量で使用しましょう。
- (2)時間 : 消毒薬は少なくとも10分以上は病原体と接触させましょう。
- (3)温度 : 消毒薬は一般に高い温度で効果が高まります。
- (4)pH : 消毒薬ごとに適正 pH があります。
例)塩素剤:酸性、石灰・逆性石けん:アルカリ性
- (5)汚れ : フンなどの汚れは消毒薬の効果を低下させてしまいます。
消毒薬の効果を発揮させるため、事前に清掃や洗浄をしましょう。



消毒以外の対策

(1)初乳の加温処理、代用乳の利用

子牛がヨーネ菌を含む乳汁を口にすることは、感染ルートのひとつとなっています。牛舎の床を清潔に保って乳房をヨーネ菌で汚染しないようにすることが大切ですが、初乳の加温処理(60℃60分)や代用乳の利用はより確実に感染を防いでくれます。

(2)早期分離飼育

母牛(成牛)がヨーネ菌を排菌している可能性があることから、子牛を早めに離乳させることで感染の確率を下げることができます。

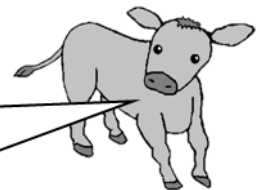
(3)作業動線

成牛舎で作業してから哺育牛舎に入る、成牛の堆肥出しの動線が育成牛舎の飼槽の前を通るなど、作業動線によっては子牛の口にヨーネ菌を運ぶことになってしまいます。今一度作業動線の確認をお願いします。

(4)フン便の完熟堆肥化

ヨーネ菌は熱に弱いため、発酵熱により殺菌することができます。

ヨーネ菌の感染率は何かひとつをすれば 0%になったり、何かをしなければ 100%になったりするものではありません。小さなことを積み重ねて感染の確率を少しずつ下げていきましょう。



北海道十勝家畜保健衛生所

〒089-1182 帯広市川西町基線 59 番地 6

TEL:0155-59-2021

FAX:0155-59-2571